



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 参天製薬株式会社

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ グループマネージャー (氏名) 日比 貴史 TEL 06-4802-9434

四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	33,682	△1.8	5,391	△31.0	5,498	△33.1	3,731	△32.9
26年3月期第1四半期	34,314	22.7	7,814	27.6	8,218	25.5	5,562	30.0

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 3,675百万円 (△58.5%) 26年3月期第1四半期 8,854百万円 (112.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	45.18	45.03
26年3月期第1四半期	67.41	67.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	256,503	180,768	70.3	2,184.06
26年3月期	231,105	181,209	78.2	2,189.50

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 180,372百万円 26年3月期 180,810百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	-	50.00	-	50.00	100.00
27年3月期	-	-	-	-	-
27年3月期(予想)	-	50.00	-	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	72,000	4.0	13,000	△10.1	13,000	△12.5	8,500	△5.5	102.98
通期	156,000	4.9	30,000	9.4	30,000	7.4	19,500	14.0	236.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

詳細は、添付資料「当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	82,587,903株	26年3月期	82,582,903株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	2,507株	26年3月期	2,324株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	82,583,831株	26年3月期1Q	82,510,735株

※ 会計基準の適用に関する説明

当社は、平成27年3月期決算より国際会計基準(IFRS)を任意適用する予定ですが、上記「平成27年3月期の通期連結業績予想」は引き続き日本基準に基づき作成しています。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

当社は、平成26年8月6日（水）に証券アナリスト、機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料は、開催後当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題に関する説明	6
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12
4. 連結参考資料	13
(1) 主要製品売上高	13
(2) 医薬品開発状況	14
(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第1四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、△4%台後半（消費税引き上げの影響を含まないベース\*）の薬価改定の影響があったものの、網膜疾患治療剤および抗アレルギー点眼剤等の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べほぼ横ばいで推移しました。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間の業績は、国内において△4%台後半（\*同上）の薬価改定の影響、消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響により、以下のとおり減収減益となりました。

（単位：百万円）

	前第1四半期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	34,314	33,682	△1.8%
営業利益	7,814	5,391	△31.0%
経常利益	8,218	5,498	△33.1%
四半期純利益	5,562	3,731	△32.9%

[売上高]

前年同期と比べ1.8%減少し、336億8千2百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における、眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」等の成長や、海外における普及促進活動により当社製品の市場浸透がみられた一方で、国内における薬価改定および消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響を受けたことによるものです。

[営業利益]

薬価改定、製品構成の変化に伴う原価率の上昇により、売上原価は前年同期と比べ0.6%増加し、135億8千4百万円となり、売上原価率は40.3%となりました。販売費及び一般管理費については、海外での普及促進基盤強化のための費用増加に外国為替レートの影響が加わり、更には研究開発費も増加したため、前年同期と比べ13.1%増加し、147億6百万円となりました。

これらにより、営業利益は前年同期と比べ31.0%減少し、53億9千1百万円となりました。

[経常利益]

前年同期と比べ33.1%減少し、54億9千8百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期と比べ32.9%減少し、37億3千1百万円となりました。

② 当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から1.7%減少し、330億6千8百万円となりました。営業利益は、53億8千1百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期から10.7%減少し、6億1千3百万円となりました。営業利益は、1千万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	25,856	△7.7%	7,212	28.3%	33,068	△1.7%
医療用医薬品	24,549	△7.4%	7,200	28.3%	31,750	△1.1%
うち眼科薬	22,011	△7.0%	6,929	26.9%	28,941	△0.6%
うち抗リウマチ薬	2,384	△9.7%	15	△44.2%	2,399	△10.1%
うちその他医薬品	152	△23.2%	256	110.3%	409	27.5%
一般用医薬品	1,307	△13.0%	11	29.2%	1,318	△12.8%
その他の事業	613	△9.4%	0	△94.5%	613	△10.7%
医療機器	561	△9.2%	0	△94.5%	562	△10.6%
その他	51	△11.3%	—	—	51	△11.3%
合計	26,469	△7.7%	7,213	28.1%	33,682	△1.8%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開しましたが、薬価改定や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、競合の影響などがあり、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ7.0%減少し、220億1千1百万円となりました。

緑内障・高眼圧症治療剤領域では、「タプロス点眼液」の売上高は前年同期と比べ16.7%減少し、17億1千8百万円となりました。また、「コソプト配合点眼液」の売上高は、前年同期と比べ12.6%減少し、24億8千7百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ19.2%減少し、37億9千4百万円となりました。また、「ジクアス点眼液」の売上高は、前年同期と比べ17.7%減少し、14億4千3百万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ23.9%減少し、18億8千7百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、スギ花粉の飛散が前年と比べ小規模ではありましたが、医薬情報提供活動に注力した結果、「リボスチン点眼液」と平成25年11月より販売している新製品「アレジオン点眼液」を合わせた売上高は、前年同期と比べ275.0%増加し、11億1千4百万円となりました。

網膜疾患治療剤領域では、滲出型加齢黄斑変性の治療ニーズに応える「アイリーア硝子体内注射液」の売上高は、順調に市場浸透した結果、前年同期と比べ20.4%増加し、46億8千6百万円となりました。

〔海外〕

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ26.9%増加し、69億2千9百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、主力品の普及促進活動の展開により、中国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬については、薬価改定や競合の影響もあり、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」合わせた売上高は、前年同期と比べ10.1%減少し、23億9千9百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、4億9百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のための販売促進活動に注力しましたが、国内における消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響などにより、前年同期と比べ12.8%減少し、13億1千8百万円となりました。

[その他の事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力ル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力したものの、国内の競合の影響などもあり、前年同期と比べ10.6%減少し、5億6千2百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものと、サプリメント製品の販売によるもので、5千1百万円となりました。

### ③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として新製品の創製を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な研究開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売しています。海外では欧州とアジアで自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、平成25年9月に日本において製造販売承認を取得しました。また、欧州において製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とするEP2受容体作動薬DE-117（一般名：未定）は、米国で後期第Ⅱ相試験を開始しました。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成25年10月より販売しています。中国では製造販売承認を申請中です。

網膜・ぶどう膜炎領域において、糖尿病黄斑浮腫と網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫を対象としたDE-102（一般名：ベタメタゾン）は、所期の達成基準を満たすことが困難であると判断したため、開発を中止しました。ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本および欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

サンテン・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokot（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、重症ドライアイを適応症として欧州で平成25年12月より製造販売承認を申請中です。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産は、有価証券の減少などがありましたが、現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末と比べ253億9千7百万円増加し、2,565億3百万円となりました。

負債は、未払法人税等、未払金の減少、賞与引当金の取崩しなどがありましたが、米メルク社の資産の一部の譲り受けに関して短期借入を行ったことにより、前連結会計年度末と比べ258億3千7百万円増加し、757億3千4百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の増加などがありましたが、為替換算調整勘定、利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末と比べ4億4千万円減少し、1,807億6千8百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ7.9ポイント減少し、70.3%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末までの営業動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が54億9千8百万円ありましたが、法人税等の支払いが78億2千1百万円、棚卸資産の増加が42億2千6百万円あったことなどにより、52億1千5百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出が4億5千3百万円ありましたが、有価証券の売却及び償還による収入が9億1百万円あったことなどにより、3億9千5百万円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いが40億3千9百万円ありましたが、米メルク社の資産の一部の譲り受けに関し、短期借入れによる収入が350億円あったことなどにより、309億6千5百万円の収入となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ256億6百万円増加し、980億2百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題に関する説明

中期経営計画について

参天製薬グループは、基本理念の実現に向けて、2020年に向けた長期的な経営ビジョンを掲げ、世界中の一人でも多くの患者さんの健康の増進に貢献するために、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」を目指します。さらに、長期的な経営ビジョンの実現に向け、より具体的な取り組みを進めるために、2014年度から2017年度までの4ヶ年の中期経営計画を策定し、以下の3つの基本方針を主たる対処すべき課題として取り組んでおります。

- (1) 持続的成長を可能とするための製品創製への変革、生産性向上の実現
- (2) アジア・欧州での事業成長および新規市場参入によるプレゼンスの向上
- (3) 持続的な成長を実現するための人材育成および組織構築

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月13日に公表した平成27年3月期の連結業績予想に、同日公表した米メルク社からの重要な権利等の譲り受けに伴う影響を反映させるため、同連結業績予想を次のとおり変更することにしました。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想 (A)	151,000	28,000	28,500	18,600	225	35
今回修正予想 (B)	156,000	30,000	30,000	19,500	236	26
増減額 (B-A)	5,000	2,000	1,500	900	10	91
増減率	3.3%	7.1%	5.3%	4.8%	—	
前期実績 (決算期統一ベース)	148,663	27,414	27,924	17,109	207	29

(ご参考)

今回修正予想 (IFRS)	156,000	31,100	31,100	20,500	248	37
---------------	---------	--------	--------	--------	-----	----

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。



3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	63,509	92,716
受取手形及び売掛金	52,086	50,495
有価証券	13,111	8,606
商品及び製品	16,223	20,334
仕掛品	390	451
原材料及び貯蔵品	3,417	3,396
繰延税金資産	2,346	1,423
その他	4,925	4,513
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	156,006	181,933
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,033	44,952
減価償却累計額及び減損損失累計額	△30,886	△31,117
建物及び構築物（純額）	14,146	13,834
機械装置及び運搬具	13,453	13,604
減価償却累計額及び減損損失累計額	△11,242	△11,306
機械装置及び運搬具（純額）	2,210	2,298
土地	8,266	8,261
リース資産	285	269
減価償却累計額及び減損損失累計額	△129	△110
リース資産（純額）	155	159
建設仮勘定	816	705
その他	12,804	12,909
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,772	△10,855
その他（純額）	2,032	2,053
有形固定資産合計	27,628	27,313
無形固定資産		
のれん	6,297	5,930
仕掛研究開発	8,357	8,160
ソフトウェア	1,826	1,761
その他	102	62
無形固定資産合計	16,585	15,914
投資その他の資産		
投資有価証券	21,739	22,680
繰延税金資産	5,488	4,991
その他	3,657	3,669
投資その他の資産合計	30,885	31,341
固定資産合計	75,099	74,569
資産合計	231,105	256,503

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,270	15,498
短期借入金	—	35,000
未払金	9,695	7,959
未払法人税等	8,169	982
賞与引当金	3,573	1,656
返品調整引当金	135	131
その他	3,249	3,694
流動負債合計	39,093	64,922
固定負債		
リース債務	59	77
繰延税金負債	2,796	2,730
退職給付に係る負債	5,400	5,528
事業構造改善引当金	802	818
資産除去債務	221	222
その他	1,521	1,434
固定負債合計	10,802	10,811
負債合計	49,896	75,734
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,264	7,272
資本剰余金	7,958	7,966
利益剰余金	160,115	159,718
自己株式	△9	△10
株主資本合計	175,328	174,946
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,035	4,648
為替換算調整勘定	2,574	1,867
退職給付に係る調整累計額	△1,128	△1,090
その他の包括利益累計額合計	5,481	5,425
新株予約権	399	396
純資産合計	181,209	180,768
負債純資産合計	231,105	256,503

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	34,314	33,682
売上原価	13,501	13,584
売上総利益	20,812	20,098
販売費及び一般管理費	12,998	14,706
営業利益	7,814	5,391
営業外収益		
受取利息	15	17
受取配当金	237	268
生命保険配当金	147	143
その他	52	46
営業外収益合計	454	477
営業外費用		
支払利息	1	2
為替差損	9	294
減価償却費	35	16
その他	5	56
営業外費用合計	51	369
経常利益	8,218	5,498
特別損失		
固定資産処分損	1	—
特別損失合計	1	—
税金等調整前四半期純利益	8,216	5,498
法人税、住民税及び事業税	2,036	739
法人税等調整額	617	1,028
法人税等合計	2,654	1,767
少数株主損益調整前四半期純利益	5,562	3,731
四半期純利益	5,562	3,731
少数株主損益調整前四半期純利益	5,562	3,731
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,379	612
為替換算調整勘定	1,863	△706
退職給付に係る調整額	49	37
その他の包括利益合計	3,292	△56
四半期包括利益	8,854	3,675
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,854	3,675
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	8,216	5,498
減価償却費	640	771
のれん償却額	184	216
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	168	127
受取利息及び受取配当金	△253	△286
支払利息	1	2
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,303	1,525
たな卸資産の増減額 (△は増加)	931	△4,226
仕入債務の増減額 (△は減少)	299	1,237
その他	△2,585	△2,553
小計	4,300	2,313
利息及び配当金の受取額	255	292
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△2,897	△7,821
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,657	△5,215
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△45	△27
定期預金の払戻による収入	45	27
有価証券の売却及び償還による収入	400	901
固定資産の取得による支出	△1,308	△453
投資有価証券の取得による支出	△2,903	△1
貸付けによる支出	—	△51
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,811	395
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	35,000
配当金の支払額	△4,018	△4,039
その他	120	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,897	30,965
現金及び現金同等物に係る換算差額	520	△539
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△5,530	25,606
現金及び現金同等物の期首残高	59,797	72,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	54,266	98,002

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	33,627	686	34,314	—	34,314
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	32	32	△32	—
計	33,627	719	34,346	△32	34,314
セグメント利益又は損失(△)	7,911	△96	7,814	—	7,814

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	33,068	613	33,682	—	33,682
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	159	159	△159	—
計	33,068	772	33,841	△159	33,682
セグメント利益	5,381	10	5,391	—	5,391

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

(重要な後発事象)

[重要な権利等の譲受]

当社は、平成26年5月13日開催の取締役会において、Merck & Co., Inc. (以下、米メルク社といいます。) が有する資産の一部を譲り受ける契約を締結することを決議し、同日付で調印しました。

これを受けて、平成26年7月1日に日本・アジア太平洋地域および一部の国を除く欧州地域に関する資産の譲受手続きが完了しました。なお、今回、譲受対象に含まれなかった欧州地域における一部の国の資産の譲受時期については、10月を予定しています。

1. 譲り受けの目的

当社は、2020年に向けた長期的な経営戦略に基づき、“世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー”の実現に向けて様々なチャレンジを進めています。本契約に基づいた資産の譲り受けにより、緑内障・高眼圧症治療剤の製品ラインアップを充実させ、患者さんの医療ニーズへのさらなる貢献を目指します。

日本国内市場では、新たな製品を取得することで緑内障事業の強化を図り、また欧州・アジア地域では、現在当社が事業を展開していない国・地域へのアクセスを獲得することによる海外事業展開の加速を目指すと共に、緑内障の製品を取得することで事業基盤の強化が可能となると考えたため、米メルク社から当該資産を譲り受けることとしました。

2. 譲り受ける相手会社の名称等

- ①名称 : Merck & Co., Inc.
- ②住所 : 米国ニュージャージー州
- ③代表者の氏名 : Kenneth C. Frazier
- ④資本金の額 : 1,788百万米ドル
- ⑤事業の内容 : 医療用医薬品、ワクチン、バイオ医薬品、コンシューマー・ヘルスおよびアニマル・ヘルス製品の開発・製造・販売

3. 譲り受ける資産の内容

日本・欧州・アジア太平洋地域において米メルク社が有する眼科用医薬品 (COSOPT, COSOPT PF, TRUSOPT, TRUSOPT PF, TIMOPTIC, TIMOPTIC PF, TIMOPTIC XE, SAFLUTAN, TAPTIQOM) に関する特許権、商標権、ドメイン名、製造販売承認等

4. 譲受価額

日本・アジア太平洋地域および一部の国を除く欧州地域に関する資産の譲受価額として、548百万米ドルを支払いました。

今回、譲受対象に含まれなかった欧州地域における一部の国の資産の譲受価額は、約50百万米ドルを予定しています。

また、契約条件に基づき、販売マイルストーンに基づいた追加支払いが発生する可能性があります。

4. 連結参考資料  
 (1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成26年3月期			平成27年3月期		
		第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一 ベース】	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計予想	通期予想
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	2,942 (9.1)	6,149 (6.6)	12,845 (18.3)	3,000 (2.0)	6,345 (3.2)	12,178 (△5.2)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	494 (8.7)	973 (0.8)	2,040 (11.4)	473 (△4.4)	938 (△3.7)	1,912 (△6.3)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	2,172 (11.3)	4,355 (10.7)	9,509 (20.8)	1,907 (△12.2)	3,992 (△8.3)	8,466 (△11.0)
コソプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	2,846 (36.1)	5,761 (35.5)	11,846 (31.5)	2,487 (△12.6)	5,117 (△11.2)	10,390 (△12.3)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	325 (△15.5)	629 (△13.8)	1,184 (△13.3)	247 (△24.0)	543 (△13.7)	1,176 (△0.7)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	517 (△9.8)	1,009 (△8.2)	1,931 (△7.4)	392 (△24.1)	916 (△9.2)	2,002 (3.7)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	401 (△19.8)	777 (△18.1)	1,549 (△10.7)	275 (△31.4)	650 (△16.4)	1,317 (△15.0)
レスキュラ点眼液 インプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	550 (△7.4)	1,096 (△5.8)	2,146 (△4.3)	473 (△14.0)	990 (△9.7)	1,930 (△10.1)
アレジオン点眼液 エピナスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー点眼剤	- -	- -	2,103 -	720 -	1,848 -	6,562 (212.0)
リボスチン点眼液 レボカバスタチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー点眼剤	297 (△47.8)	801 (△31.9)	2,534 (△37.2)	394 (32.7)	743 (△7.3)	1,944 (△23.3)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	5,497 (5.4)	10,748 (△1.2)	21,823 (3.1)	4,848 (△11.8)	10,265 (△4.5)	21,031 (△3.6)
ジクアス点眼液 ジクアホルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	1,754 (61.8)	3,529 (57.2)	7,937 (42.7)	1,529 (△12.8)	3,486 (△1.2)	8,235 (3.8)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	807 (△19.5)	1,807 (△9.8)	3,973 (△10.7)	917 (13.6)	1,935 (7.1)	3,964 (△0.2)
カリーユニ点眼液 ピレノキシ点眼液	老人性白内障治療剤	943 (△1.0)	1,957 (0.6)	4,059 (7.8)	949 (0.6)	2,006 (2.5)	4,161 (2.5)
オベガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	714 (△3.4)	1,433 (△0.4)	2,867 (0.9)	640 (△10.3)	1,307 (△8.8)	2,654 (△7.4)
アイリーア硝子体内注射液 アフリバルセプト(遺伝子組換え)硝子体内注射液	眼科用VEGF阻害剤	3,893 -	8,164 -	18,756 (489.2)	4,686 (20.4)	9,344 (14.5)	19,200 (2.4)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	839 (△5.8)	1,633 (△3.8)	3,134 (△3.7)	693 (△17.4)	1,363 (△16.5)	2,735 (△12.7)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	994 (△0.9)	1,949 (0.8)	3,819 (1.4)	872 (△12.3)	1,783 (△8.5)	3,619 (△5.2)
メトレート錠 メトレキサート錠	抗リウマチ剤	595 (18.8)	1,194 (18.8)	2,410 (18.1)	566 (△4.9)	1,112 (△6.9)	2,363 (△2.0)
一般用医薬品		1,512 (3.8)	3,400 (6.9)	6,455 (△0.3)	1,318 (△12.8)	3,122 (△8.2)	6,331 (△1.9)

下段: 対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア	2010年3月					
				中国	2011年1月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月以降、日本や欧米で発売。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポール等で発売。2011年1月より、中国で製造販売承認を申請中。										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	韓国	2013年10月					
				中国	2012年1月					
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月より日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。2012年1月より、中国で製造販売承認を申請中。										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。										
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国・日本・欧州でフェーズ3試験を実施中。										
タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	2013年9月					
				欧州	2013年6月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。欧州にて製造販売承認を申請中。2013年9月、日本にて製造販売承認を取得。										
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	(フェーズ2b)					
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。2014年6月、米国でフェーズ2b試験を開始。										
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	2013年10月					
				アジア	2014年3月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。2014年3月よりアジアで順次、製造販売承認を申請中。										
未定	DE-120	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国	(フェーズ1/2a)					
VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤。2014年1月より、米国でフェーズ1/2a試験を実施中。										



■サンテン・エス・エー・エス開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokat (シクロカット)	重症ドライアイ 免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。	自社	欧州				2013年12月		
				米国						
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル 免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。	自社	欧州						
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症 プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。	自社	欧州						
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫 抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。	自社	米国	(フェーズ1/2)					

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中。

■2013年度第4四半期発表時(2014年5月13日)からの変更点

開発コード / 品名	変更点
DE-117	2014年6月、米国でフェーズ2b試験を開始。
DE-102	開発中止(所期の達成基準を満たすことが困難であると判断したため)。

(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成26年3月期			平成27年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
設備投資額	1,027	1,844	3,155	381	2,820	6,690

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成26年3月期			平成27年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	561	1,174	2,612	699	2,610	6,700
製造経費	273	582	1,330	354	620	1,290
販売管理費	134	289	648	183	1,620	4,620
研究開発費	153	302	634	161	370	790

(注1) のれんおよび長期前払費用の償却費は除いています。

(注2) 添付資料「3. 四半期連結財務諸表(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(重要な後発事象)」に記載の重要な権利等の譲り受けに伴い取得した無形固定資産の償却費が、販売管理費において第2四半期累計見込額に1,200百万円、通期見込額に3,700百万円含まれています。

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成26年3月期			平成27年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
研究開発費	3,845	8,078	19,040	4,237	9,000	19,300
対売上高比	11.2%	11.7%	12.8%	12.6%	12.5%	12.4%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。